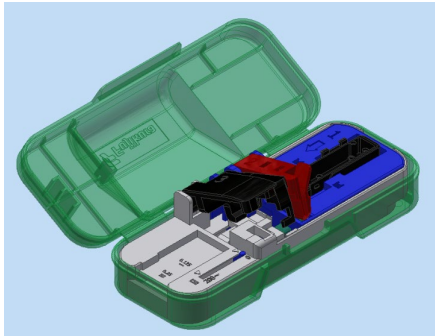
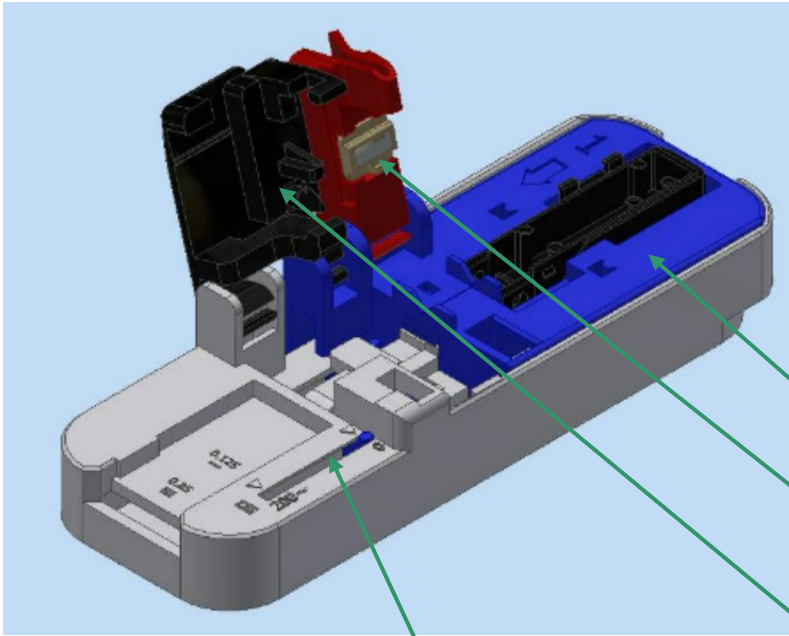


概要

フジクラ製およびスズキ技研製の現場付けコネクタ(※1)に使用できるファイバカッタです。

(※1) KY-FAコネクタプラグ「F」、KY-FAコネクタプラグSC「F」、KY-FAコネクタソケットストレート「F」、FASコネクタプラグ「D-KY」「F」、KY-ガイヒハジTS<SC>-<LG>-<F>、KY-ガイヒハジTS<SC>-<LM-R>-<F>、FASコネクタプラグ「F」「F」、FASコネクタソケット「F」



収容ケースに入れた状態

スライダ“1”

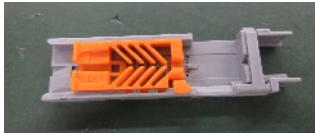
※内部にバネが実装されています。

ファイバクランプ部材“2”

刃部材“3”

※先端の白い部分がダイヤモンド砥粒刃です。触れないように注意してください。

使用回数メモリ(0→200)
※200回のカウンタです。

対応ファイバ	125umシングルモードファイバ	
切断回数	200回以上	
対応ファイバホルダと適用製品		KY-FAコネクタプラグ「F」 KY-FAコネクタプラグSC「F」 KY-FAコネクタソケットストレート「F」 FASコネクタプラグ「D-KY」「F」 KY-ガイヒハジTS<SC>-<LG>-<F> KY-ガイヒハジTS<SC>-<LM-R>-<F>
		FASコネクタプラグ「F」「F」 FASコネクタソケット「F」
簡易ストリッパ		フジクラ製の簡易ストリッパを使用して作業をしてください

作業手順(詳細)

- ①ファイバをファイバホルダにセットし、簡易ストリッパを用いて被覆を除去し、ファイバの清掃とスクリーニングを行います。

■ファイバ素線の場合

ファイバの長さは、簡易ストリッパの先端から25mm程度ファイバが出るようにセットします。



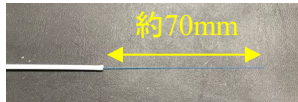
簡易ストリッパへのセット長



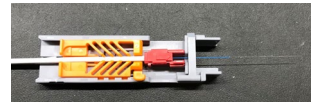
被覆除去後

■ドロップケーブル、インドアケーブルの場合

ファイバの長さは、口出し長を70mm程度になるようにファイバの口出しを行います。

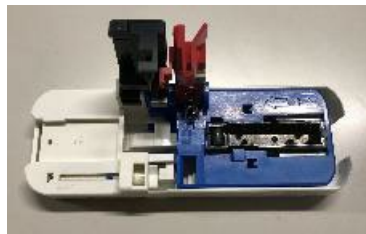
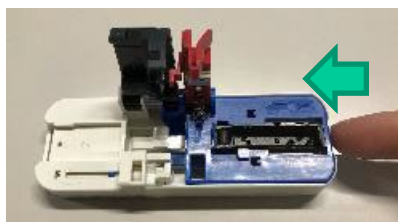


口出し長



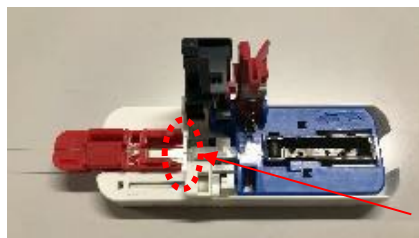
被覆除去後

- ②スライダ(青色、本体左上に”1”と記載)を、カチッと音が鳴るまで押し込みます。



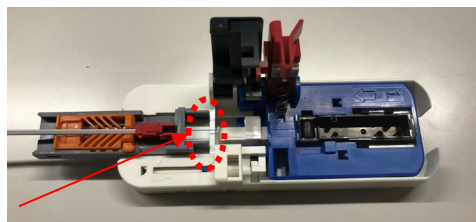
- ③ファイバホルダをフェールセーフカッタに隙間が無いように突き当てます。

■ファイバ素線の場合



隙間が無いように

■ドロップケーブル、インドアケーブルの場合



- ④ファイバホルダを指で押さえた状態でファイバクランプ部材(赤色、蓋上面に”2”と記載)を閉じ、ロックされる位置まで押し込みます。※2 ※3

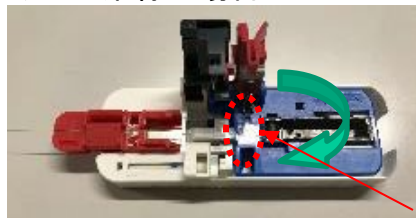
※2 スライダに実装されたバネのロックが解除され、張力が印加されます。

押し込みが甘い場合、ファイバに傷が入らず、切断ができません。

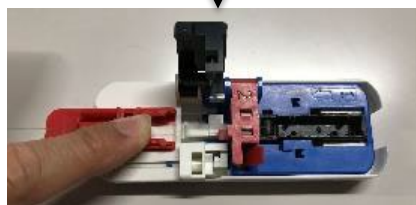
※3 スライダのV溝部に異物が無いことを確認してください。

もし異物がある場合、ファイバが破断する可能性があります。

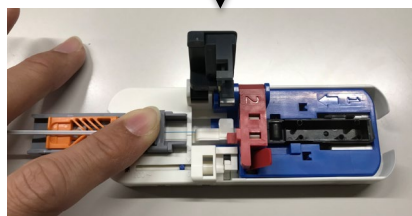
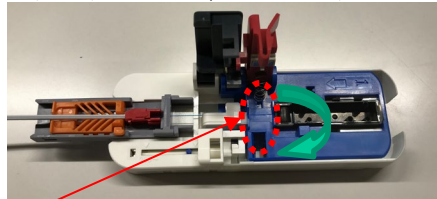
■ファイバ素線の場合



V溝部
異物が無いように



■ドロップケーブル、インドアケーブルの場合



作業手順(詳細)

⑤ファイバホルダを指で押さえたまま、刃部材(黒色、蓋上面に“3”と記載)を閉じ、刃部材(灰色“3”)の中心(下図の赤丸部分)を軽く押します。

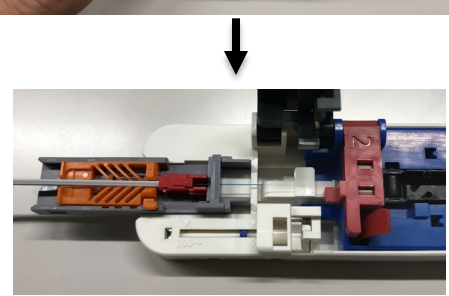
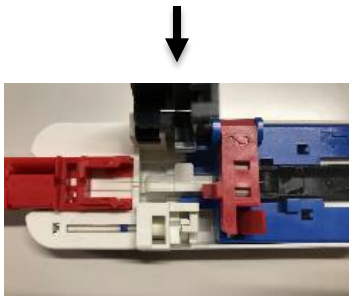
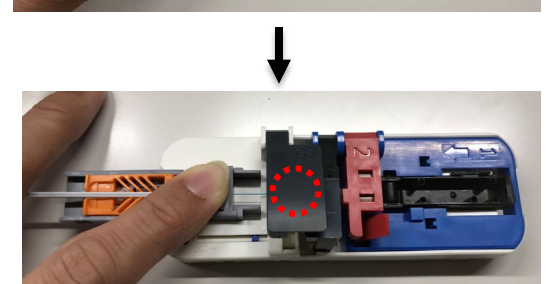
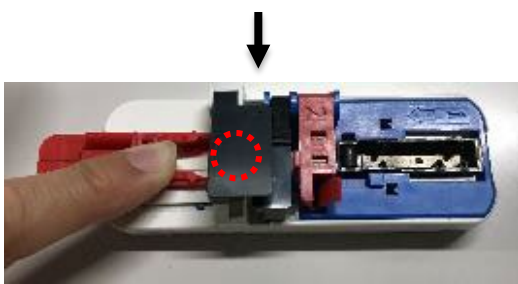
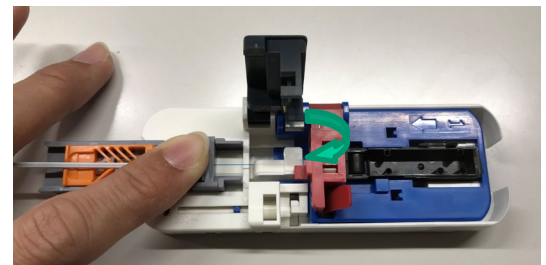
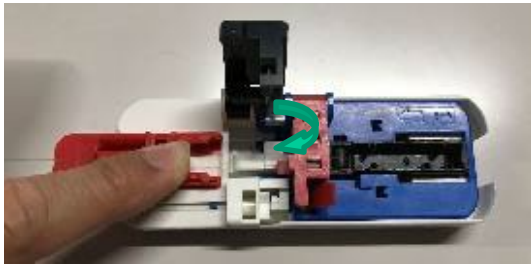
刃がファイバに触れると、スライダ(青“1”)が移動し、ファイバが切断されます。※4、※5

※4 ファイバ切断中はスライダ(青“1”)に触れないようにしてください。

※5 刃部材を押してもファイバが切断できなかった場合は、ファイバに微小な傷が入っている可能性がありますので、ファイバの再口出しからやり直してください。

■ファイバ素線の場合

■ドロップケーブル、インドアケーブルの場合



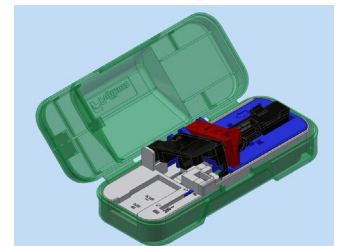
補足 切断されたファイバはファイバクランプ部材(赤色)に抑えられたままです。ファイバクランプ部材を開けない限り、切断したファイバは固定されております。

作業完了後にファイバを押さえながら(ピンセットやテープを推奨)ファイバ抑え部材を開けて、ごみ袋などに捨てていただくなどの方法でファイバくずの処理をしてください。

作業終了後

作業が終わりましたら、スライダおよびファイバクランプ部材のロックを外した状態で収容ケースに収めてください。

- ファイバクランプ部材(赤色“2”)がロックされた状態で、長期間保管すると、ファイバ把持部の溝が変形し、適正にファイバが保持できなくなる恐れがあります。



□ 原理・ポイント・Q&A

□ 原理・ポイント

■ 光ファイバへの傷の与え方

プラスチック片にダイヤモンドを塗粒した部材で光ファイバに傷を付ける方式を採用。

異常な傷が入ることがなく、切れなくなるモードしか発生しないため、“フェールセーフ”(不良を起こすような切断をしない)と呼んでいます。

■ 引っ張り応力による破断

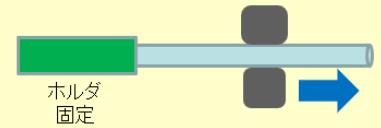
口出した光ファイバをカッタにセットし、バネによって光ファイバ自身に張力を印加します。張力を印加した状態で光ファイバに傷を入れると、傷の入った場所で光ファイバが切断されます。曲げ応力と異なり、光ファイバ全面に応力が加わることから、切断面に突起(リップル)が生じません。

■ 使い捨て

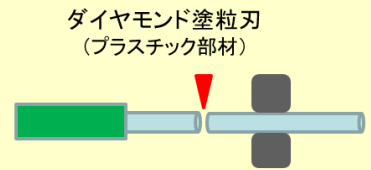
ダイヤモンド砥粒刃が無くなることで、カットができなくなります。

カットができなくなりましたら、古いカッタは捨てて、新しいカッタをご使用ください。分解はしないでください。

① 光ファイバをクランプし、内蔵バネによって張力を印加



② 張力印加状態で傷を入れることで、光ファイバが切断される



□ Q&A

Q：もしファイバが切れない場合は、どうすれば良いですか？

以下のポイントを確認し、手順に従ってファイバの再口出しから行ってください。それでも、カットできない場合は、新しいカッタをご使用ください。

① ダイヤモンド砥粒刃にゴミが付着していませんか？

※ 刃の表面をアルコールを浸した綿棒で軽く拭き、アルコールが完全に乾いた後、作業を行ってください。

② 適切にファイバの被覆除去・ファイバ清掃がされていますか？

③ スライダ（青“1”）を押し込んでおり、バネが効いていますか？

④ ファイバクランプ部材（赤“2”）が、正しくロックされていますか？

⑤ カット時に、刃部材（灰色“3”）の中心を押していますか？

⑥ 使用回数メモリが200回に到達していませんか？